



2019年度 全国学力学習状況調査の結果について

御嵩町(組合)教育委員会



御嵩町で学ぶ児童生徒一人一人に生きる力を育む!

文部科学省は、下記の目的で、2019年度全国学力・学習状況調査を実施した。

調査の目的 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査対象は、小学校6年生と中学校3年生で、調査内容は、小学校6年生で国語、算数、中学校3年生で国語、数学及び英語、質問紙調査(児童生徒対象と学校対象)である。今回から、国語と算数、数学は、知識を問う「A」問題と応用力を問う「B」問題の区分がなくなった。

御嵩町教育委員会は、保護者や地域住民に対して説明責任を果たすために、子どもたちの学力・学習状況について、積極的な情報提供を行うとともに、教育施策の成果と課題を検証し、学校・家庭・地域社会が協力して、その改善を図ることが重要であると考えている。そこで、町長、教育委員会、可児郡小中学校長会等で協議し、「先生や児童生徒のやる気につながる」「保護者や地域住民の協力を得る」ために、平成31年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領「調査結果の公表に関しては、教育委員会や学校が、保護者や地域住民に対して説明責任を果たすことが重要である。一方、調査により測定できるのは学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要である。」に基づいた公表を行う。ここに公表する内容は、各校が9月までに保護者等に向けて公表した内容の一部をまとめたものである。特に、考察・課題、改善策が重要である。各校及び御嵩町教育委員会の取組について、忌憚のないご意見をいただき、更なる教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善につなげていきたい。

中学校

平均正答率による分析では、全国も岐阜県も、昨年度の「A」問題の結果と比較すると、国語、数学とも1～6ポイント下がり、「B」問題の結果と比較すると、国語、数学とも11～13ポイント上がっている。昨年度の「B」問題と比較して問題の難易度が下がったと言える。御嵩町全体の結果は、国語、数学、英語は全国と比較してやや低い。昨年度の御嵩町と比較しても数学に課題があり、英語にも課題がある。個に応じた指導について、更なる対策が必要である。中央値による分析では、御嵩町全体の結果は、国語、数学ともに全国とほぼ同等で、英語は全国と比較してやや低くなっている。

◆上之郷中学校

平均正答率による分析では、全国と比較して数学はほぼ同等、国語、英語はやや低くなっている。生徒の生活や学習の状況を把握し、それに即した支援を家庭の協力も得ながら全校体制で進めていく必要がある。中央値による分析では、全国と比較して、国語、数学は同等で、英語は全国と比較してやや低くなっている。

考察・課題

◇国語では、全体の正答率は、全国平均よりやや下回っている。話し合いでの発言全体の流れを読み取り、その話題や方向を適切に捉える問題で、正答率が低い。書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する問題で、正答率が低い。伝えたい事柄について、根拠を明らかにして書く問題で、正答率が低い。

◇数学では、連立二元一次方程式を解く問題で、全国平均を上回っている。証明で用いられている三角形の合同条件を書く問題で、全国平均を上回っている。三角形の平行移動した距離を求める問題で、正答率が低い。反比例の表から式を求める問題で、無回答率が高く、正答率も低い。2枚の硬貨を同時に投げるとき、2枚とも表の出る確率を求める問題で、正答率が低い。資料を整理した表から最頻値や代表値を読み取る問題で、正答率が低い。

◇英語では、全体の正答率は、全国平均よりやや下回っている。まとまりのある話を聞いて、話の展開に合わせて示す絵を並び替える問題で、全国平均を上回っている。グラフを見て、その内容を正しく表している英文を選択する問題で、全国平均を上回っている。日常的話題について、情報を正確に聞き取る問題で、正答率が低い。まとまりのある文章を読んで、書き手が最も伝えたい内容を選択する問題で、正答率が低い。会話が成り立つように英文を書く問題で、正答率が低い。英語を「話すこと」の問題で、正答率が低い。

改善策

○国語では、読み取りの視点を明示し、内容を的確にとらえられるようにし、読解力を高める。国語辞典、類義語辞典等の活用を積極的に行い、語彙力を高める。要約文や作文等を書く機会や練習をいろいろな教科に位置づけ、書くことへの抵抗感を取り除く。

○数学では、平面図形や空間図形について、観察や操作などの活動を行い、図形に対する見方や考え方を確かなものにする。関数の指導にかかわって、二つの数量について、それらの変化や対応を調べる活動を通して、比例、反比例の関係について理解を深め、具体的な事象で活用できるようにする。資料をもとに、表やグラフに整理する活動を行い、代表値や資料の散らばりに着目して、その資料の傾向を読み取ることができるようにする。

○英語では、音声面を中心としたコミュニケーションが図れるように指導過程を工夫し、英語を聞くこと、話すことへの抵抗感を取り除く。単語や文法の練習や確認テストを計画的・継続的に行い、英語で表現するための基礎・基本の定着を徹底して行う。

◆向陽中学校

平均正答率による分析では、国語、数学、英語は全国と比較してやや低くなっている。中央値による分析では、全国と比較して、国語はほぼ同等で、数学、英語はともにやや低い状況である。低位の生徒に対する、基礎的な学習に関して、更なる指導が必要である。

考察・課題

◇国語では、4領域全てで全国平均、県平均を下回っていた。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では「封筒の書き方を理解して書く」について全ての条件を満たして書くことができた生徒は全国、県平均を上回ったものの、許容範囲内で書くことができた生徒は大きく下回っていることから「言語についての知識・理解・技能」について身に付いている生徒とそうでない生徒との差が大きいことが分かる。また、問題の意図を理解し、自分の考えを整理するのにやや時間がかかったり自信がなかったりして書くことができなかったと考えられる。

◇数学では、4領域全てで全国平均、県平均を下回っていた。特に「関数」の領域は「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」問題をはじめ、「グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を、事象に即して解釈する」問題などの正答率が低い。また、約半数の問題で無回答率が全国、県平均を大きく上回っていることから基礎基本の定着が不十分だと考えられる。しかし、質問用紙で解答について「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と答えた生徒が半分以上いるように平成28年度と比較すると記述式の正答率は大きく上がっているので問題を解くことについては前向きになってきていることが分かる。

◇英語では、4領域（話すことは参考値）全てで全国平均、県平均を下回っていた。「聞いて把握した内容について、適切に応じることができる」については正答率が極めて低く、無回答率も5割を超えている。同様に「書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる」についても低い正答率と4割の無回答率である。「話すこと」については誕生日を答える問題で全国平均を上回ったが、その他の問題については全国平均と同様に全体的に正答率は低い。交通手段を問う問題で「By bus」と答え、「He」から始まる生徒が一人もいないことから分かるように答え方が複数ある問いに対しては主語述語で答えることが苦手な傾向にあることが分かる。

改善策

○教科共通では、全校研究会を中心に「3つの見届ける」にこだわった授業を継続し、確実に学力を身に付けられるようにする。交流の仕方も少人数や観点別など様々な形式で行うことで一人一人が自分の考えを伝えられるようにする。また教科に応じて、習熟度別少人数指導(数学)や補助教員による個別支援などを行い、指導・援助の充実を図る。

○国語では、始業前に漢字プリントに取り組む活動を継続し、漢字の読み書きの定着を図る。毎日10分間の朝読書を積み重ねることで読む力をつけたり、国語の教材と関連付けたりして読書への関心を高めていく。情報や条件をもとに自分の考えを書くことが苦手な生徒が多いので授業の中でまとめる書く時間を確実に確保していく。単元によっては書いた考えを交流したり推敲したりして客観的な目で見られるように仕組む。

○数学では、練習問題に取り組む活動を継続することで前時の学習が身に付いているかを確認し、基礎学力の定着を図る。「無回答」が少しでも減るように各領域について苦手なところは前の単元に遡って学びなおすようにして、苦手な問題に対しても「ここまではできる」という自信につなげていくようにする。習熟度別少人数指導やティーム・ティーチングを生かして、わからない生徒には繰り返し練習問題に取り組みせ、理解できた生徒にはチャレンジ問題に取り組みせたりする。

○英語では、帯活動や授業全体を通して繰り返し対話形式で交流することでコミュニケーション能力を培っていく。表現の基本となる単語や文法については教師が援助することで少しでも会話することへの不安を解消していく。これまでに身に付けた知識を活用して自分の考えを書くといった活動も積極的に取り入れていく。

◆共和中学校

平均正答率による分析では、全国と比較して国語、数学はやや高く、英語はほぼ同等である。昨年と比較すると国語、数学ともに正答率が大幅に上がっている。生徒の学習の状況を把握し、それに即した支援を全校体制で進めている成果が出ている。中央値による分析では、全国と比較して、国語、英語はほぼ同等で、数学はやや高い状況であった。

考察・課題

◇国語では、学習指導要領の「書くこと」の領域では、全国・県の正答率よりやや高く、「読むこと」の領域で、全国・県の正答率よりもやや低い結果であった。「評価の観点」では、「国語への関心・意欲・態度」や「書く能力」にかかわる正答率は全国・県よりやや高く、「読む能力」は全国・県よりやや低い結果であった。問題形式では、「選択式の正答率が全国・県よりもやや高く、「短答式」「記述式」では全国・県よりもやや高い結果であった。文章の構成や展開。表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ力や、伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く力は比較的よく身に付いている。これに対し、相手に分かりやすく伝わる表現について理解する力にやや弱さが見られる。

◇数学では、学習指導要領の「数と式」の領域では、全国・県の正答率より高く、「資料の活用」ではやや低い結果であった。評価の観点では、「数学的な技能」に関わる設問の正答率が全国・県より高く、「数量や図形などについての知識・理解」では僅かに全国・県の正答率を下回っている。また、問題形式では、「選択式」の問題の正答率は高かったが、「記述式」の問題の正答率は、やや低い結果であった。「数の集合と四則計算の可能性についての理解」や「簡単な連立二元一次方程式を解く力」は、比較的よく身に付いている。また、総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈する力も比較的付いている。しかし、「資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明したり、資料を整理した表から最頻値を読み取ったりする力にやや弱さがみられる。

◇英語では、学習指導要領の領域では、「聞くこと」「読むこと」の正答率はほぼ全国・県の平均であるが、「書くこと」は低い結果が出ている。評価の観点では、外国語表現の能力は高いが、言語や文化についての知識・理解がやや低い結果である。問題形式では、「選択式」はおおよそ平均の正答率であったが、「短答式」「記述式」では低い結果であった。日常的な話題について、情報を正確に聞き取ったり、まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解したり説明文の大切な部分を理解したりする力は比較的身に付いている。しかし、聞いて把握した内容について適切に応じることや、書かれた内容に対して自分の考えを示すよう、話の内容や書き手の意見などを捉えることに弱さがみられる。

改善策

○国語では、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすることや情報を過不足なく選択し整理したりする力をつけたい。また、相手に分かりやすく伝わる表現について理解するために、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すことの習得にも力を入れたい。

○数学では、図形の性質を考察する場面において、図形の移動の特徴を的確に捉えること、平行移動の意味を理解するために、観察、操作や実験などの活動を通して、見通しをもって作図したり図形の関係について調べたりして平面図形について理解を深めるとともに、論理的に考察し表現する能力を培いたい。また、論理的に考察し表現する能力を養うために、平面図形の合同の意味及び三角形の合同条件についての理解を深めたい。

さらに、資料に基づいて不確定な事象を考察する場面において、表を活用して数学的に処理すること、資料の傾向を読み取り批判的に考察し判断したことの根拠を数学的な表現を用いて説明すること、数学的な結果に基づいて判断するなどの力をつけたい。

○英語では、日常的话题について、情報を正確に聞き取ることができる力をつけるために、自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ったり、強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ったりする活動を仕組む。また、書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができるために、読んだことを基にして書く、読んだ後に感想や意見、賛否、また、その理由を示すことを念頭に置いて、話の内容や書き手の意見などを主体的にとらえる学習を進めたい。

小学校

平均正答率による分析では、全国も岐阜県も、昨年度の「A」問題の結果と比較すると、国語、数学とも5～9ポイント下がり、「B」問題の結果と比較すると、国語、数学とも15～18ポイント上がっている。昨年度の「B」問題と比較して問題の難易度がかかなり下がったと言える。御嵩町全体の結果は、国語は全国と比較してほぼ同等で、算数は全国と比較してやや低い。中央値による分析では、御嵩町全体の結果は、国語、算数ともに、全国と比較してほぼ同等であった。

◆上之郷小学校

平均正答率による分析では、国語、算数ともに、全国と比較してほぼ同等である。個に応じたきめ細かな指導の成果と言える。中央値による分析では、全国と比較して国語、算数ともに、全国と比較してほぼ同等であった。

考察・課題

◇国語では、目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む問題の正答率が高い。ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる問題の正答率が高い。問題を読み取り、大切なことをまとめて書く力が弱い。目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確に、まとめて書く問題の正答率が低い。図表やグラフなどを用いた目的を捉える問題の正答率が低い。

◇算数では、図形の性質や構成要素に着目しほかの図形を構成する問題の正答率が高い。棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取る問題の正答率が高い。加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする問題の正答率が高い。示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述する問題の正答率が低い。示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算する問題の正答率が低い。1800÷6は、何m分の代金を求めている式といえるのか、式の意味を問う問題の正答率が低い。

改善策

○国語では、漢字を文の中で正しく使うことに弱さが見られる。習った漢字を使ってノートや日記を書くように指導する。「漢字の広場」等の学習において、習った漢字を使って短文作りをする。漢字辞典・国語辞典を手元に置き、国語以外の学習でも利用する。漢字検定への挑戦を呼びかける。自分の考えをまとめて書くことに弱さが見られる。推薦図書読破の取組を通して、文を読む力を伸ばす。説明文の単元で、筆者の考えを読み取り、限られた字数の中でまとめる練習をする。目的や意図を明確にして日記や作文を書くように指導する。

○算数では、示された計算の仕方を解釈し、ほかの場合に広げて考えることに弱さが見られる。解を出すまでの過程を明らかにし、「まず、次に、」と順序立てて、ノートにまとめたり、説明し合ったりする活動を取り入れる。単元の終末において、発展的な問題を取り上げて、「工夫して求める」「やり方を説明する」ことに取り組む。

除法の式の意味を理解することに弱さが見られる。問題文から求めているもの、分かっていることを明確にし、式に表すことや式を読み取る練習をする。割合の単元では、問題文から正確に「もとにする量、比べる量、割合」を読み取る練習をする。

○児童質問紙では、学校に行くのは楽しいと感じて、難しいことでも挑戦しようと意欲的に取り組み、やり遂げた喜びを感じている児童が多いが、将来の夢や目標をもっている割合が低いので、キャリア教育を意識した指導を進めていく。規則正しい生活を送っているが、メディアとの接し方から自分の生活を見直していくことが大切になるので、生活習慣チェックやノーメディアの取組を継続していく。国語の勉強が好きな児童の割合が低いので、授業で学んだことを日記や他教科等と関連させながら児童の興味関心をもてる指導を工夫する。また、読書が好きな児童の割合は高いが、学校の授業時間以外に普段（月曜日～金曜日）1時間以上読書する児童の割合は、とても低いので、推薦図書読破と共に並行読書や家読の取組を進め、家庭で本と親しむ時間が増えるように指導する。

◆御嵩小学校

平均正答率による分析では、国語、算数いずれも、全国・県と比較してやや低い。中央値による分析では、全国と比較して、国語、算数ともにやや低い。いずれの教科も下位の児童に対する基礎的・基本的な学習内容の定着を図るための継続的

な指導が必要である。

考察・課題

◇国語では、情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を選択する問題や、目的に応じて質問を工夫する際、適切なものを選択する問題において、全国平均正答率とほぼ同等のポイントを示している。全国平均正答率と比べて、「国語への関心・意欲・態度」、「言語についての知識・理解・技能」が下回っている。接続語を使って内容を分けて書く問題では、無回答率が非常に高い。また、漢字を文中で正しく使う問題では、漢字によって、正答率が高いもの（調査の対象）、低いもの（限らず）が明確に表れている。話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる問題や、ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる問題では、正答率が全国平均正答率に比べ低く、無回答率も高い。自分の考えをまとめて書くことに大きな抵抗がある。

◇算数では、図形の性質や構成要素に着目し、どれが台形かを選ぶ問題では、全国平均正答率と同じである。減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめるか記述する問題では、正答率が低く、無回答率が高い。単位量当たりの大きさを基に、所要時間の求め方と答えを言葉や数を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断する問題では、全国平均正答率を下回っている。算数の授業で学習したことが、将来、社会に出たときに役に立つと思ったり、普段の生活の中で活用できないか考えたりする傾向が県、全国に比べて低い。算数の授業が日常生活とあまり結びついていないと児童は感じている。

◇児童質問紙では、全国を上回っている質問事項顕著なものとして「学校のきまりを守っていますか」、「人が困っているときは、進んで助けていますか」、「自分にはよいところがあると思いますか」である。全国を下回っている質問事項顕著なものとして「読書は好きですか」、「将来の夢や目標を持っていますか」、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」、「授業でICTをどの程度使用しましたか」である。

改善策

○国語では、言語についての知識・理解・技能を身に付けるために、文法の習得に力を入れる。その際、文例を自分の表現に置き換えるなど、自己表現の場を意図的に増やし、自分なりの考えを書かせるようにする。授業で自分の考えを話す活動を増やし、終末で自分の意見として書きまとめる場面を多く取り入れる。漢字を正しく読み・書きするために、文中で使う習慣を身に付けさせる。特に間違えやすい漢字の習得は、学年を超えて復習の機会を設定する。

○算数では、普段の生活と結びつけた問題を提示し、かつ視覚的な提示をして、一人一人確実に問題把握できるようにする。どの学年においても減法、除法についての理解を深めていくとともに、反復練習などを進めながら、減法、除法の計算の仕方を着実に身に付けさせていく。授業では、なぜその公式やきまりが使えるのか、意図的に根拠を問うようにする。

○児童質問紙では、学年の枠を超えて児童一人一人のよいところを教師や児童が積極的に認めていく。話し合い活動を積極的に増やし、その話し合いから自分の立場・考えを自己決定させて取り組ませる。どの教科の授業でもコンピュータなどのICTを積極的に活用する。

◆伏見小学校

平均正答率による分析では、国語は全国と比較して高く、算数は全国とほぼ同等である。下位の児童に対する基礎的・基本的な学習内容の定着を図るとともに、上位の児童を活躍させ、仲間と学び合う学習を組織することの成果が出ている。個に応じた指導や校内研究の成果である。中央値による分析では、全国と比較して国語、算数ともに、全国と比較してほぼ同等であった。

考察・課題

◇国語では、目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にしてまとめて書く問題や話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる問題ではそれぞれ全国平均正答率を上回っている。文と文との意味のつながりを考えながら、接続詞を使って内容を分けて書く問題や、既習の漢字を文中で正しく使うことができるかどうかをみる問題では、正答率が低い。

◇算数では、台形について理解しているかどうかをみる問題や、示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用する問題では、全国と岐阜県の平均正答率を上回っている。加法と乗法の混合した整数と小数の計算問題では、全国平均正答率を上回っている。示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述する問題や、資料の特徴や傾向を関連付けて一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述する問題では、正答率が低い。

◇児童質問紙で、「朝食を毎日食べていますか」の質問では、「食べている」と「どちらかといえば食べている」の合計が100%であった。「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」の質問では、「起きている」と「どちらかといえば起きている」の合計が100%であった。国語や算数の学習について好きかどうかを尋ねる質問では、「どちらかといえば当てはまらない」と答えた児童が、どちらも20%近くあった。

改善策

○国語では、接続詞の働きを正しく理解し、意味のつながりや文末表現を考えて文章を書くことができるように、授業の終末等で、自分の考えやまとめを書くときにも、接続詞の使い方に留意させる。新出漢字の学習だけでなく、既習の漢字の復習にも力を入れ、正しく書いたり、自分が書く文章の中で使おうとしたりする習慣を身に着けさせる。そのために、各教科等の学習や家庭学習に取り組む際にも意識させる。読書指導をさらに推進し、目的に応じて本や文章全体を概観して効果的に読む力を伸ばしていく。

○算数では、図形の面積の求め方の説明を、言葉や数を用いて記述する問題では、無回答が16.2%であった。自分の考えを言葉や文章などで表現する力を伸ばすために、授業の中で仲間との交流学習を工夫し、伝える力を培っていく。また、難しくてもあきらめないで問題に取り組む意欲を大切にしていく。「量と測定」の領域に、学力定着の弱さがみられる。全学年において指導内容を確認し、指導方法の改善について検討しながら、算数の学習が好きな児童を育てていく。

○児童質問紙では、規則正しい生活習慣が、落ち着いた学校生活と学力の向上につながると考える。起床や就寝の時刻、朝食の摂取、家庭学習の取組など、今後も保護者との連携も大切にいく。

1 小中連携・中学校ぐるみの学力向上の取組

確かな学力を育むため、平成22年度から「御嵩町学力向上推進事業」として、小中連携・中学校ぐるみの学力向上に取り組んできた。校区の小中交流会は年3回（春・夏・秋）開催し、教職員や児童生徒の交流が深められ、平成25年度より、秋の交流会の内、指定した校区の交流会に御嵩町全教職員が参加し、御嵩町全体の取組となるよう、実践内容の共通理解を図るようにした。下記の内容で取り組んでいる。

- 1 事業のスローガン…「楽しいな 分かったよ できたよ」 高まる子ども みんなの力で
- 2 事業の目的…自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決していくための資質や能力を身につけさせ、確かな学力・豊かな心・健やかな体を育む。→ 一人一人に「生きる力」を育む。
- 3 事業の「学力」とは…教科で身につけさせたい力(知)に限らず、社会性(徳)の育成や健康な生活づくり(体)の面等、人としての向学的変容を生み出す力に基本を置く。
- 4 事業のスローガン「みんなの力で」の4観点
 - (1) 学 校……授業改善 生きる力を育み、確かな学力を身に付けさせるための「授業改善」の推進
 - ①授業改善のポイント ・実態把握やつまずきの要因分析 ・指導改善サイクルを生かした実践 ・個に応じたきめ細かな指導 ・「主体的・対話的で深い学び」による授業改善 ・「3つの見届ける」を通じた学習内容の定着 ・学校におけるカリキュラム・マネジメントの充実(児童生徒一人一人に生きる力を育む 地域に開かれた教育課程づくりの取組)
 - ・小学校の教科担任制の実施、小中兼務の活用等
 - ②自ら学び自ら考える力の育成と確かな学力の定着を目指す主題研究の充実 ・教科指導、環境教育、人権教育(道徳教育、特別活動、生徒指導)、健康教育、防災教育、食育等
 - ③望ましい学習(学級)集団の育成 ・学習規律の確立 ・学び方指導の徹底等 ・学び合いの質が高まる学習集団の育成
 - ④教職員自らの資質向上を目指す自己研修の充実 ・教科の本質に立った教材研究 ・自ら進んで問題を見つけ解決する授業改善 ・存在感や所属感を高める学級経営 ・望ましい校内環境づくり等 ・小中連携による研修
 - (2) 校種連携……幼保小中高を見通した教育 幼保小中高の連携や積み上げ、接続を大切にし、幼保小中高を見通した教育の構築
 - ①幼保小中高の教育目標のかかわりの明確化と教育目標の更なる具現化 ②小中の教科、道徳、特別活動等の指導内容の系統性と一貫性の確認 ③校区の学習指導・生徒指導上の共通実践内容と発達段階に応じた指導内容と指導方法の明確化
 - ④校区の道徳教育の重点内容項目の共通化と共通実践の明確化 ◆共通実践(例) 挨拶・掃除・仲間・安全
 - ⑤幼保小中高の実践交流及び園児・児童・生徒との活動交流の活発化
 - (3) 家庭・地域連携……家庭・地域の教育力活用 家庭や地域との連携を深め、それぞれの教育力を生かし、活用する教育の構築
 - ①地域の施設や豊かな自然を活用した教育活動の推進…中山道みたけ館、みたけの森、公民館、名鉄広見線、可児川等
 - ②幅広い知識や経験を持つ地域の人材を指導者として招聘する教育活動の推進…地域の方々から知識、技術、社会性、道徳性等生き方を学ぶ ◆ふるさとふれあい 夢づくり事業の推進 ③地域の行事等への積極的な参加・呼びかけ及び学校行事等の情報発信 ④望ましい生活習慣の確立…時間や食に対する意識の高揚、規範意識(情報モラル)の高揚 ⑤真の学力を伸ばす基盤となる家庭での生活づくり、生活改善、家庭学習、一家庭一実践等◆PTA活動の充実◆家庭教育学級の活性化
 - (4) 児童生徒……自治活動の推進 学力の向上のために、児童生徒が自主的・自治的に取り組む活動の推進
 - ①学校 ・学級での係活動 ・児童会・生徒会活動 ・各委員会活動 ②校種連携 ・児童会・生徒会等がタイアップして行う活動 ③家庭・地域連携 ・児童会・生徒会等が家庭・地域に働きかける活動

2 「学校におけるカリキュラム・マネジメント充実事業」の取組

児童生徒一人一人に生きる力を育む 地域に開かれた教育課程づくり ～地域とともにある学校づくりを基盤として～

(1) 2030年を見通した資質・能力

オックスフォード大学のマイケル・オズボーン氏による「2030年は、仕事の半数はAIで代替。」ニューヨーク市立大学のキャシー・デビットソン氏による「小学生の65%は将来、今は存在していない職業に就く。」等々、急速な情報化や技術革新は人間生活を質的にも変化させつつある。社会の変化は加速度を増し、児童生徒の生き方にも影響を与えている。このような時代だからこそ、次の資質・能力の3点が重要になってくる。

- ①何を理解しているか、何ができるか…社会の中で生きて働く「知識・技能」の習得
- ②理解していること・できることをどう使うか…未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか…学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養

(2) 資質・能力を育むために

これらの資質・能力を育んでいくためには、次の①～⑥に関わる事項を各学校が組み立て、家庭・地域と連携・協働しながら実施し、目の前の児童生徒の姿を踏まえながら不断の見直しを図ることが求められる。

- ①何ができるようになるか…育成を目指す資質・能力
- ②何を学ぶか…教科等を学ぶ意義と、教科等・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成
- ③どのように学ぶか…教科等の指導計画の作成と実施、学習指導の改善・充実
- ④児童生徒一人一人の発達をどのように支援するか…児童生徒の発達を踏まえた指導

⑤何が身に付いたか…学習評価の充実

⑥実施するために何が必要か…地域に開かれた教育課程を実現するために必要な方策

(3) 御嵩町が取り組む2年間の研究

前述を基盤として、昨年度から2年間、岐阜県教育委員会の指定を受け「学校におけるカリキュラム・マネジメント充実事業」に取り組んできた。研究主題は「児童生徒一人一人に生きる力を育む 地域に開かれた教育課程づくり～地域とともにある学校づくりを基盤として～」で、研究内容は以下の3点である。

- ①地域に開かれた教育課程づくり…よりよい学校教育を通じてよりよい地域を創るという目標を持つ。地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりする。全教職員が地域に開かれた教育課程づくりの必要性を理解し「私の教育課程づくり」に取り組み、「我が校の教育課程づくり」につなげていく。
- ②地域に開かれた教育課程の実施状況に基づくPDCAサイクルの確立…児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査、各種データ等に基づいて実施し、PDCAサイクルを確立。
- ③地域とともにある学校づくり…保護者や地域住民が学校運営に参画する学校運営協議会制度により、地域の力を学校運営に生かす。コミュニティ・スクールを全小中学校に広げる。小・中学校が互いに情報交換し、交流することを通じ、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す。各中学校区で小中一貫教育を目指し、教職員の兼務を推奨する。

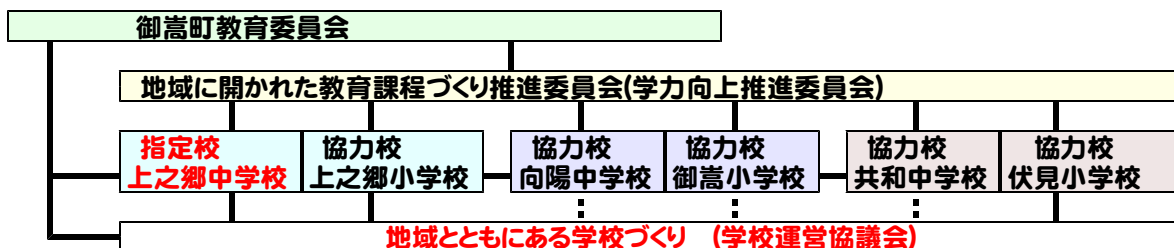
(4) 指定校、協力校及び研究組織

上之郷中学校を指定校とする。指定校は、指定の趣旨を踏まえ、研究推進委員会を中心に主題研を設定・推進する。年度末には成果と課題を明確にして、県内に実践研究を広める。

上之郷小、御嵩小、向陽中、伏見小、共和中を協力校とし、主題研の中で、学力向上の基盤となる取組や地域社会に開かれた教育課程づくりを洗い出し、指定校の研究に協力する。

御嵩町全体の推進組織としては、御嵩町学力向上推進事業の組織を活用する。御嵩町全教職員の支援と協力により、研究を推進していく。

(5) 御嵩町全体の推進組織図



(6) 平成30・令和元年度岐阜県教育委員会「学校におけるカリキュラム・マネジメント充実事業」研究開発指定校公表会 兼 御嵩町学力向上推進事業拡大交流会 の案内

- 1 日時 令和元年11月13日(水) 13:40～16:45 (受付13:15)
- 2 会場 御嵩町立上之郷中学校 可児郡御嵩町中切1758 TEL 0574-67-0431
- 3 上之郷中学校 研究主題・研究内容

- ◆研究主題 地域とともにある学校づくりをめざす教育課程
～「人間関係力・主体性・表現力」の育成～
- ◆研究内容
 - ①教科横断的な視点での教育内容の組み立て
 - ②教育課程の実施状況に関する調査結果に基づく授業のPDCAサイクルの確立
 - ③地域とともにある学校づくりの在り方

4 日程

13:15	13:40	14:00	14:45	14:55	15:45	15:55	16:15	16:30	16:45
受付	取組紹介	全体会(体育館)	移動	公開授業	移動	対話の時間①(生徒発表)	対話の時間②(研究協議)	指導助言	挨拶

5 全体会 14:00～ 体育館

- 1 挨拶 御嵩町教育委員会 岐阜県教育委員会
- 2 パネルディスカッション コーディネーター 岐阜大学教職大学院准教授三島晃陽先生
パネラー 上之郷中学校教頭、教務主任、研究主任

6 公開授業 14:55～

学級	教科	単元(題材)名	授業者	場所	分科会場
1年A組	国語	幻の魚は生きていた	河村 陽介	1年A組	多目的ホール
2年A組	数学	平行と合同	森 和宏	2年A組	学年室
3年A組	英語	Unit5 Living with Robots-For or Against	可児 芳恵	3年A組	生徒会室

7 対話の時間①・②及び指導・助言・挨拶 15:55～ 各分科会場

- 1 対話の時間①(生徒発表) 2 対話の時間②(研究協議)
- 3 指導助言・挨拶 ①指導助言 御嵩町教育委員会 岐阜県教育委員会
②挨拶 上之郷中学校長